

# 社会福祉法人さぼうと21

## 東日本大震災関連支援事業

### ～2012年度活動報告～

2012年4月～2013年3月

2011年3月11日の東日本大震災発生以後、多くの支援者の方々のお力添えにより、姉妹団体のAAR Japan（認定NPO法人難民を助ける会、以下AAR）と協力して、主に岩手県、宮城県、福島県の被災地に対する支援活動を行ってまいりました。本年度の実施内容について、以下のとおりご報告申し上げます。

#### コンテナハウスの寄贈

イタリアから輸入したコンテナハウスを以下の2カ所に寄贈しました。コンテナハウスは、菅原出 国際政治戦略研究所の協力により、購入したものです。

##### ① 岩手県大槌町（2棟、2012年9月設置）

大槌町桜木町仮設住宅団地で、津波により店舗が全壊した「上野商店」の営業再開を支援するため、コンテナハウスを寄贈しました。上野商店は被災前、買い物が困難な高齢者などの地域住民のために訪問販売を行っていました。今後、コンテナハウスは地元で生産した食品や物品の販売に利用されます。また、店舗の一角に、地域の障がい者施設や福祉施設の授産品も置いて広報を行うことになっています。

##### ② 宮城県気仙沼市（2棟、2012年7月設置）

気仙沼市の唐桑<sup>からくわ</sup>地区で、わかめ養殖業を営んできた漁師組合「蔵内之芽組」は、津波被害により作業場や加工機材、漁船を失いました。寄贈したコンテナハウスは、加工や袋詰め作業を行う漁師や漁港の人々の休憩所と集会室として活用されます。

今後、地元産の食品や、福祉施設で作った物品などの販売に活用予定  
(大槌町にて、9月9日設置)





作業小屋や休憩所として役立てられるコンテナハウス  
(気仙沼にて、7月14日設置)

### 琴などの邦楽器の贈与 (岩手県大船渡市)

中学校の音楽教科で必修となっている邦楽器について、岩手県大船渡市立第一中学校から特段の希望が寄せられたため、AARの支援者及び日立製作所邦楽部の協力を得て寄贈しました。当会はその梱包費と送料の他、関連する教具の購入費用を負担しました。

同校は津波による直接の被害こそ免れたものの、生徒や職員の中には自宅が津波で流出したり、親戚を亡くされた方もおられます。震災後、邦楽器の予算措置が取れないままとなっていました。

この度お贈りした邦楽器は、十三弦箏3面、十七弦箏1面及び、立奏台や譜面台などの付属品一式(合計約50点)です。授業で早速活用して頂いています。(2012年5月完了)



大船渡市立第一中学校にて、左から当会の阿部評議員、吹浦理事長、柳瀬評議員、生徒代表、石山校長先生、音楽の松村先生

## アンサンブル MOMO チャリティコンサート

2012年6月24日～6月26日にかけて、被災された方々のためのコンサートを開催。女声重唱グループ「アンサンブル MOMO」（吉野真紀子氏・村上初美氏・鶴治美氏）と、開催をご支援下さったサンキョー株式会社の阿部恭久 代表取締役社長（当会役員）他が岩手県・宮城県の高齢者施設や障がい者施設（合計6カ所）を訪問しました。（当会は交通費の一部を負担。）

震災後1年以上が過ぎても未だ復興が進んでいない中、訪問させていただいた施設の方々から温かい歓迎を受け、「被災地のことを常に忘れない」というアンサンブル MOMO メンバーの思いが込められたミニコンサートとなりました。

### 《訪問先》

#### 岩手県陸前高田市

- 医療法人勝久会 松原苑      ●社会福祉法人高寿会
- 社会福祉法人燦々会 あすなろホーム
- 福祉生活協同組合気仙地域センター障がい者福祉作業所 すずらんとかたつむり

#### 岩手県釜石市

- 社会福祉法人翔友 かまいしワークステーション

#### 宮城県東松島市

- 医療法人社団健育会 ひまわりデイサービスセンター



なつかしい日本の童謡や唱歌を、会場の皆さまも一緒に歌って下さった。（2012年6月25日）

## 古今亭駿菊師匠・三遊亭金八師匠による巡演落語会

2011年5月より被災地で寄席を催す活動を続けている古今亭駿菊師匠、三遊亭金八師匠（「今そこに落語と笑いを配達する演芸団」を結成）と当会役員が宮城県南部の一市三町の仮設住宅の集会場等を7月に訪問し、2日間合計6回の巡回公演を行いました。

≪公演日≫  
 2012年7月11日～7月12日  
 ≪会場≫  
 岩沼市 里の杜(東)仮設住宅  
 亘理町 旧館仮設住宅、工業団地仮設住宅  
 丸森町 八雄館  
 山元町 熊野堂仮設住宅、東田(北)仮設住宅  
 ≪企画≫  
 渡辺政巳 前丸森町長

各公演では、落語の他、腹話術や寄席踊りなども披露されました。会場には毎回多くの入居者が集まり、原発事故の影響もあって日頃気持ちが沈みがちとなっていた方々から、「落語を聞くのは初めて」「震災のことを忘れるくらい笑った」「長生きしてよかった」などのご感想を頂きました。

尚、開催にご協力頂いた渡辺政巳 前丸森町長が、2日間を通じて同行して下さいました。



両師匠の共演に笑いが  
 巻き起こる里の杜(東)  
 仮設住宅の会場  
 (2012年7月11日)



亘理町の工業団地仮設  
 住宅にて、お集まり下さ  
 った皆さんと  
 (2012年7月11日)

## 宮城県内被災地での夏期研修会

今年度の夏期研修会は、「日本郵便年賀寄附金配分事業」の一環として宮城県の被災地にて行われ、関東・関西の高校や大学（院）などに通う難民や、中国帰国者と日系定住者の子弟（当会支援生）と関係者等、合わせて80名が参加しました。研修会中、助成金及び企業からのご寄付をもとに、被災地訪問とボランティア活動、被災された方々との交流会、さらに、宮城県内で外国人支援や被災者支援に取り組んでいる3名の方を招いて、日本の国際化を考えるシンポジウムを実施しました。

《日 程》 2012年8月26日～8月29日

《プログラム》

- 被災地訪問に関する勉強会（講師：松舘 忠樹氏・元NHK仙台支局長）

「東日本大震災 私たちは何を学ぶか？地域再生とは？」

- 被災地訪問（図書寄贈プロジェクト）

- 被災された方々との交流会（会場：鳴子ホテル）

- 夏期研修会記念事業 シンポジウム

「日本の国際化社会を考える集い ～定住する8カ国出身の支援生とともに～」

《宿泊/主会場》 宮城県青年会館（仙台市）

《助 成》 日本郵便 年賀寄附金配分事業



津波で破壊された石巻市立門脇小学校の跡を訪れ、言葉もなく、ただ頭を下げる参加者たち  
(2012年8月27日)

## 【図書寄贈プロジェクト】

被災地の仮設住宅や福祉施設で本が不足しているため、小説、児童書、絵本、趣味の実用書などの蔵書の提供を全国に呼びかけたところ、7月中旬から約3週間のあいだに貴重な書籍約3000冊が集まりました。北は北海道から南は福岡まで、多くの方々から譲って頂いた本を、宮城県青年会館理事長 石垣英孝氏のご協力を賜り、研修会

参加者が仕分けをして、宮城県内の以下の施設やグループに寄贈しました。気仙沼市ししおり鹿折地区の仮設商店街にはコンテナハウス 1 棟を購入し、商店街に来る子ども向けに図書室を設置。山元町と亘理町の訪問時には、岩沼市議会議員の沼田健一氏が地域の案内役をお引き受け下さり、被災時の様子などを詳しく教えて頂きました。

尚、足りなかった分野（手芸や地理など）の本については、ニーズに合わせて一部新規購入しました。

他にも多くの施設等で書籍が不足しており、定期的に読める雑誌が欲しいとのご要望もあるため、AAR と協力して 2013 年度以降も図書プロジェクトを継続し、新刊本や雑誌の追加寄贈を行ってまいります。

#### 本をお届けした主な施設・団体（宮城県内）

石巻市	小国の郷仮設住宅、元浦屋敷仮設住宅
気仙沼市	鹿折復幸マルシェ（仮設商店街）
東松島市	とんぼの会（手芸グループ）
女川町	女川地域福祉センター
山元町	ささえ愛山元（高齢者施設）
亘理町	WATALIS（手芸工房）



電気工事が終了したコンテナハウス(当会寄贈)にて、暑さの中、全国から集まった蔵書を仕分けする当会支援生(左)と、ようやく完成した手作りの本棚(右)

(気仙沼の仮設商店街にて、2012年8月27日)

#### 【鳴子温泉交流会】

宮城県石巻市北上町十三浜吉浜地区の被災者 16 名を鳴子温泉にご招待し、当会支援生や地元協力者ら約 55 名との交流会を行いました（会場：鳴子ホテル）。

吉浜地区は、宮城県北東部の北上川河口にあり、地震と津波で大きな被害に遭った集落です。震災前は60世帯近くが暮らしていましたが、遠隔地のため行政などの支援が行き届かず、2012年8月の時点で15世帯のみが壊れたご自宅を修理して留まっていたらっしゃいました。

鳴子温泉では、久しぶりに親しいご友人との再会が叶い、1泊2日の楽しいひと時を過ごして頂くことができました。

しかし、吉浜地区は2012年12月に「災害危険区域」に指定され、今後は全世帯が移転を余儀なくされています。住民同士のつながりや引き継がれてきた慣習が失われようとしているため、2013年度も同地区出身者への支援を継続していく予定です。



鳴子温泉は古くから、石巻市、南三陸町、女川町といった宮城県沿岸部との間で人の往来があり、震災直後には避難所として多くの被災者を受け入れました。

(2012年8月27日)

## 【夏期研修会記念事業シンポジウム】

「日本の国際化社会を考える集い ～定住する8カ国出身の支援生とともに～」

パネリスト : 石垣 政裕氏 (東北大学大学院経済学研究科)  
大村 昌枝氏 (宮城県国際化協会)  
末松 和子氏 (東北大学大学院経済学研究科)  
水上 洋一郎氏 (日韓文化協会顧問、元東京入国管理局長)  
山田 寛氏 (元嘉悦大学教授、元読売新聞アメリカ総局長)  
モデレーター : 吹浦 忠正 (当会理事長、ユーラシア21研究所理事長)

震災直後より県内在住外国人の支援に心を砕いてきた宮城県国際化協会の大村氏、「お父さんたちのネットワーク」の世話人として、地域の人々に寄り添った支援活動を続けてきた石垣氏、東北大学国際交流支援室の副室長として、罹災した留学生のサポートに携わってきた末松氏をゲストに迎え、パネルディスカッションを開催 (一般来場者あり)。当会役員の水上氏、山田氏とともに、震災後の日本社会に向けて、ベトナム、ラオス、カンボジア、

ミャンマー、中国、アフガニスタン、ブラジル、ナイジェリアの合計 8 カ国出身の当会支援生（27名出席）も、自らの生い立ちや経験をもとに意見を述べました。

地震発生後の避難の様子や、  
外国籍住民に関わる地域の  
課題など、3時間半余りに  
わたって議論が展開された。  
(2012年8月27日、宮城  
県青年会館にて)



#### ピアノ発表会とトランペット・コンサートの開催 (岩手県陸前高田市)



- ♪空にひびけ はじめの一步♪
- 開催日：2012年10月7日
- 会場：田村ピアノ教室  
(陸前高田市)
- 協力：小林 好夫氏  
(トランペット奏者)

岩手県陸前高田市にて被災し、全壊した「田村ピアノ教室」(代表=田村<sup>なおこ</sup>尚子氏、2011年度から支援継続中)の教室再開に伴い、震災後初めてとなる発表会の開催を支援しました。

生徒24人の発表会「空にひびけ はじめの一步」は、プレハブの仮設教室にて実施。著名なトランペット奏者小林好夫氏の賛助出演もあり、生徒の家族の他、被災した方々約150人が集まりました。



同教室は、地域の文化センター的な役割も果たす人気の高い教室でしたが、震災により、教室も田村代表の自宅も全壊・流失。生徒4名が津波で亡くなりました。街の再建が進まず、教室再開の目途も立たない中、当会は同教室を2011年度から全面的に支援し、東京オペラシティから当会に譲渡されたアップライトピアノを2012年4月に提供した後、8月に岩手県内の業者からグランドピアノを購入しました。

発表会では、それらのピアノを使って練習を重ねた生徒が次々に演奏。他の地域で被災生活を送る人々にも、風に乗せて自分たちの音楽を届けたいという思いから、仮教室前の駐車場を利用した野外コンサートとなりました。会の最後には、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」などを参加者全員で歌い合いました。



小林好夫氏によるトランペット・コンサートに、子どもたちは大興奮。  
(ピアノは田村代表)

ピアノを皆で外に運び出して野外音楽会となった。  
(2012年10月7日)

### 被災地支援活動報告会・パネルディスカッション

12月末、被災地支援活動報告会とパネルディスカッションを日本記者クラブにおいて行い、113名が参加しました。

#### “在日難民などが語る「今、日本社会に伝えたいこと」”

《開催日》 2012年12月26日

《会場》 日本記者クラブ(東京都千代田区)

《プログラム》

●第1部:活動報告(当会支援生)

●第2部:パネルディスカッション(支援生OB・OG)

「日本社会の国際化を考える」

●第3部:懇親会

《助成》 日本郵便 年賀寄附金配分事業

《後援》 特定非営利活動法人 東京コミュニティカレッジ  
AAR Japan(認定NPO法人 難民を助ける会)

第1部では、2012年8月下旬に、宮城県の被災地を訪問した当会支援生のうち、大学生及び大学院生9名が活動内容を報告。福祉施設等の見学やボランティアをした体験をもとに、例えば「災害社会学」「エネルギー問題」「メディア報道」のように、学生自身の研究や関心分野に結びつけて発表しました。

また、第2部には、ベトナム、カンボジア、中国出身の当会元支援生（社会人）4名がパネリストとして登場（司会はジャーナリストの山田寛氏、当会役員）。ディスカッション中、外国出身者も日本人も住みやすい震災後の日本社会を目指して、それぞれの立場から率直な発言が相次ぎ、会場からも多くの質問が寄せられました。

第3部の懇親会は、国際機関職員、教員、学生、メディア関係者など、さまざまな来場者と、現支援生や支援生OB・OGとの交流の機会となりました。

震災後の電力供給や  
環境問題についての  
研究報告  
(修士課程2年)



普段はお互いにかかる機会が  
少ない現支援生やOB・OGが  
勢揃い（2012年12月26日  
懇親会にて、役員とともに）

### 南三陸在住の外国出身者による講演会

宮城県南三陸町で被災されたフィリピン出身の佐々木アメリア氏による講演会を、当会事務所にて開催しました。震災当時の外国籍住民の心情や、必要とされていたサポート、その後の地域の状況と課題などを中心にお話し頂きました。

講演はビルマ語通訳付きで行い、さぼうと21学習支援室の受講生やボランティアの他、一般の申込者も合わせて43名が参加。震災から2年を経て、首都圏に住む参加者が日常生活を振り返り、防災意識を高める機会となりました。

開催日：2013年3月9日  
会場：さぼうと21事務所  
会議スペース  
講師：佐々木 アメリア氏  
(フィリピン出身)



在住外国人の視点から  
震災を振り返る参加者

### 被災地おかあさんコーラス活動支援コンサート

#### ～秀でた幸せを探しに・・・～

このチャリティコンサートは、震災後、日常生活を取り戻すために、毎日家族を必死に支えている母親たちに、被災前に続けていた合唱をメンバーと共に再び楽しんでもらいたいと企画されたものです。岩手県や宮城県から招待された合唱グループと東京都内のグループが共演。当会はその運営に協力しました。

当日は、合唱を愛する幅広い年齢層の女性を中心に、大ホールの1階席（座席数1040）がほぼ満席となりました。追悼の美しいレクイエムから幕を開けた舞台は、3時間半にわたって母親たちのパワフルな歌声で満たされました。

コンサートの純益とチケット1枚につき100円の寄付金が、主催したHarmony for JAPANを通じて被災地に送られ、今後、現地のコーラス活動に活用されることになっております。

開催日：2013年3月20日

会場：すみだトリフォニー 大ホール

出演：北上・コーラスせせらぎ、花巻ユネスコ・ペ・セルクル、宮一女OG合唱団、  
楽-GAKU-、くりの実会、コーロ・ネスボラ、玉川グリーンハーモニー、  
女声合唱団花野、聖心女子大学グリークラブOG会、メサイアを歌う会、  
ラ・カンパネラ

指揮：辻 秀幸

主催：一般社団法人 Harmony for JAPAN



各合唱グループの衣装で彩られたステージ(2013年3月20日)

【撮影:スタッフ・テス(株)】

## 復興支援 ヴァイオリン・リサイタル

### ～天満 敦子 明日に繋ぐ祈り～

姉妹団体 AAR Japan との共催で、被災地 3 県合計 6 ヲ所にて、入場無料のヴァイオリン・リサイタルを開催。甚大な被害を受けた後、ようやく使用可能になった施設や、当会がピアノを寄贈した仮設ピアノ教室などが会場となり、来場者は総計約 2,800 人に達しました。東京都・浜離宮朝日ホールでのコンサート（有料）には皇后陛下にもご来臨を賜り、天満敦子さんとピアニストの吉武雅子さんが共演。被災地への深い祈りと想いが込められた演奏に、満席の会場から温かい拍手が沸き起こりました。

- |      |                              |  |
|------|------------------------------|--|
| 会 場  | 2013 年 3 月 22 日（金）           | 田村ピアノ教室（岩手県陸前高田市）<br>リアスホール（岩手県大船渡市）       |
|      | 3 月 23 日（土）                  | 女川町地域福祉センター（宮城県女川町）<br>社会福祉法人 夢みの里（宮城県石巻市） |
|      | 3 月 24 日（日）                  | ゆめはっと 大ホール（福島県南相馬市）                        |
|      | 3 月 25 日（月）                  | 福島市音楽堂 大ホール（福島県福島市）                        |
|      | 3 月 29 日（金）                  | 浜離宮朝日ホール（東京都中央区）                           |
| 主 催  | AAR Japan(認定 NPO 法人 難民を助ける会) |  |
| 共 催  | 社会福祉法人さぼうと 2 1               |  |
| 出 演  | 天満 敦子（ヴァイオリン）、吉武 雅子（ピアノ）     |  |
| 協 力  | オフィス天満                       |  |
| 特別協賛 | 日本ロレックス株式会社                  |  |



皇后陛下にご来臨を賜った浜離宮朝日ホールにて  
左は日本ロレックス(株)代表取締役ブルース・R・ベイリー氏、右は長 有紀枝 AAR 理事長  
(2013年3月29日) 【撮影:遠藤宏】



未だ撤去されていない瓦礫の前で、そっと手を合わせる天満敦子さん(南相馬市小高区、写真左)  
10月に当会の支援で発表会を行った田村ピアノ教室では、子どもたちに囲まれて演奏  
(陸前高田市竹駒町、写真右)



浜離宮朝日ホールにて、東北公演でお会いした方々への想いを胸に演奏する天満敦子さんと、ピアノの吉武雅子さん(左) 【撮影:遠藤宏】

以上

【支援活動にご協力いただいた企業・団体等（2011年～2012年度）】

企 業 / 財 団	麻沼産業株式会社
	イメージニクス株式会社
	株式会社ポネール
	株式会社ミリオンインターナショナル
	公益財団法人東京オペラシティ文化財団
	公益財団法人野村生涯教育センター
	サンキョー株式会社
	セガサミーホールディングス株式会社
	高野興業株式会社
	鳴子ホテル
	宮脇書店 鹿島台店（有限会社テルイ）
	ヤマハ株式会社
	山ふところの宿みやま
	有限会社タニパテントシステムズ
六花亭製菓株式会社	
行 政 / 団 体 他	稲井オヤジの会
	女川町観光協会
	学研有志の皆さま
	仙台フィルハーモニー管弦楽団
	東北大学国際交流支援室
	宮城県国際化協会
	宮城県青年会館
	鳴子国際交流協会
	ロミーズ・パッチワーク・スクール
AAR Japan(認定 NPO 法人 難民を助ける会)	
(五十音順・敬称略)	
<p>その他にも多くの団体・個人の皆様からご支援・ご協力をいただいております。 改めて深く御礼申し上げます。</p>	